

5-2 RTI のデザインには細心の注意が必要

レベル 3 の自動運転においてシステムが RTI を発してドライバーに運転交代を要請するとき、システムは、「ドライバーが RTI を遅滞なく知覚し、状況を理解したうえで車両制御を引継いでくれる」ことを仮定しています。さらに、「システムは、RTI を発して一定時間が経過した時点で作動モードを解除する」ものとされています（J3016 の 2016 年版、p. 20）。

しかし、これらはシステム側が描いている「ドライバーの理想像」に過ぎません。すなわち、現実のドライバーは、システムが発した RTI に気づかなかったり、RTI には気づいたものの、どのように対処すればよいのか分からず戸惑ったりすることもあるはず。そのようなとき、システムが、システムが「RTI を発してから一定時間が経過した」という理由で作動を停止してしまったりしたら、何が起こるでしょうか。車両は、システムにもドライバーにも制御されない「無制御状態」になってしまうのでしょうか。そのような事態に至らないようにしようと思えば、システムからドライバーに向けた RTI のデザインに細心の注意と工夫が必要になります。